

フタの脳の解剖



写真1：生徒は、やる気満々。



写真2：半分に割った頭骨から脳を取り出す。

写真3：髄膜を
半分はがした状態。
大脳のしわがくっきり見える。

写真4：脳の重さを測定する。

2014年5月28日（水）6限目、3年理系の生物選択者による**フタの脳**の解剖が行われた。ブタの脳は、同じ哺乳類であるヒトの脳の構造と共通点が多い。しかし、最も脳が発達しているヒトと比べると違いもあるはずだ。**形は？ 大きさは？ 重さは？**…そんな興味から解剖は始まった。

ブタの頭骨は、ブタの目と同じ業者から購入した（1個1000円）。すでに、頭骨の正中線に沿って、ノコギリで切れ目が入っている。一部、つながっている部分をノコギリで切断すると、頭骨を大きく左右に開くことができる（写真1，2）。脳は、**白っぽい膜**に包まれており、その膜と頭骨とが一部癒着している。生徒達は、ハサミで丁寧にそれを切除し、約20分かけて、きれいに脳を取り出すことに成功した。

脳を包んでいる**白っぽい膜**は、**髄膜**（「硬膜」と「くも膜」からなる）と呼ばれている。髄膜をはがしていくと、くっきりと大脳と小脳の姿が現れる（写真3）。弾力性のある丈夫な髄膜によって、**柔らかい脳**は守られているのである。また、ヒトの脳の重さは日本人の成人男子で1350～1400g、女子で1200～1250gとされているが、今回のブタの**脳の重さは約120g**。頭骨の大きさの割に、意外なくらいに小さいのが印象的だった（写真4）。

☆生徒のスケッチと感想☆

- ・脳の膜がキレイにはがれたのが感動した（M.H）。
- ・脳なんて初めて見たので新発見ばかりでした。脳の周りの皮や膜がとても硬かったの、脳の大切さを知りました（A.H）。
- ・脳に触ったらふによぶによしていた。脳を包む膜が丈夫でした（G.I）。
- ・一つの頭で多くの部位を見ることができた。ブタさんに感謝です（Y.K）。
- ・初めて見た脳が衝撃的でした。血管が脳全体に張り巡らされ、膜に覆われる脳を見ると、脳が大切な役割を担っていることにますます興味が沸きました（Y.S）。
- ・脳を直接触れるすごくよい体験ができた（M.S）
- ・想像以上に脳が軽かった。また、脳が膜で覆われていることがよくわかった（R.S）



